

鴻巣市指定史跡

昭和四十五年三月十日指定

箕田みだ古墳群こふんぐん…箕田七号墳みだなごうふん

この箕田七号墳は、箕田台地の鞍部から荒川沖積地に向かう傾斜面の変換点に位置する。古墳の裾の標高は約一八メートルで、南西方向へかなり強く傾斜している。現状から直径一〇メートル強、高さ二メートル弱の小円墳と見られる。戦前に発掘調査が行われたが、正式な報告はなされていない。しかし『箕田郷土誌』と『埼玉県史』によると、昭和初期に古墳の裾部分を開墾中、石室の一部が発見され、円墳の中央部よりやや南に偏って三味線胴形の石室が現れたとある。本墳の築造年代は、切石切組積の胴張り式石室をもち、埴輪を伴うことから、六世紀末葉と推定される。

古墳時代後期になると、一定の地域内に小規模な古墳が群集するように造られるようになった。箕田古墳群もそうした古墳群のひとつで、この箕田七号墳は、箕田古墳群の中の富士山支群に属している。

現在この周辺には、北方約五〇メートルに箕田八号墳が存在しているだけであるが、かつては多数の古墳が存在していたとみられる。

平成三十年三月

鴻巣市教育委員会



文化財を大切にしましょう